

熊本くみあい飼料株式会社と合併し、出荷 新生ジェイエイ北九州



●平成23年 長崎工場鶏豚新設備増設



●平成25年 危機管理対応本社社屋建設



●平成27年 大分工場労働災害ゼロ4000日達成



※平成28年 JAうすきたまごファーム株式会社福岡鶏卵センター竣工披露式

平成22年 2010

- 2月 ●品質管理室増設
- 3月 ●原料受入および配合系列シーケンサー更新
- 副原料受入設備自動化
- 4月 ※宮崎県にて口蹄疫が発生（高位レベルの防疫体制にて対応）
- 6月 ●高感度PCR分析機器導入
- 10月 ●ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社と熊本くみあい飼料株式会社が合併し、新生

- ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社が誕生
増資（資本金 2,000百万円）
- 販売管理システム・JA-Fineおよび会計システム熊本工場導入
 - 副原料集塵機更新
 - サイロ屋根および外壁工事
 - 11月 ●全農より稲わら事業を移管
 - 大木町に稲わらセンター建設
 - 原料角タンク改造
 - 主原料ロール粉碎機更新

- 工場制御室移設
- 長崎税関より表彰
- 12月 ●主原料粉碎機設置

平成23年 2011

- 2月 ●牛用飼料製造工程増設
- 受変電および中央制御室増設
- ペレット4号機更新（抗菌性無添加工程）
- 1バラ計量機載架装置設置

エリア6県域に4工場体制での出荷を開始。

くみあい飼料株式会社時代

- 3月 ●牛用副原料平倉庫増設
- ※東日本大震災が発生（北日本くみあい飼料株式会社へ配合飼料の緊急応援と生活用品および食糧等の物資支援）
- 4月 ●大分県内中継基地全面廃止
- 6月 ※株式会社白杵養鶏場の子会社化
- 8月 ●燃焼式たん白質分析装置導入
- 9月 ●貫流ボイラー設置
- 本配合計量機A機およびB機更新
- 10月 ●鶏豚新設備建設（新工場）
- 11月 ●牛用ペレットミル更新
- 紙袋製品包装用ロボットパレタイザー更新

平成24年 2012

- 1月 ●鶏豚紙袋製品包装用ロボットパレタイザー更新（長崎工場より移設）
- 2月 ●ペレット冷却装置（クーラー）更新
- 3月 ●長崎支店開設
- 長崎工場新鶏豚設備にて抗菌剤GMPガイドラインの適合確認取得
- フレック搬送工程更新
- 原料払出工程システム更新
- 工場正門車両消毒ゲート更新
- バラ製品出荷設備システム更新
- 4月 ●全農より粗飼料事業を移管
- 粗飼料事業移管に伴うシステム構築
- 製造の合理化および効率化を目的に第一次工事を開始
- 5月 ●プロイラー用ペレットマッシュ飼料の製造開始
- 7月 ※九州北部豪雨が発生（福岡県南部、熊本県熊本地方・阿蘇地方、大分県西部で猛烈な雨が続き各地で甚大な被害が発生）
- 8月 ●貫流ボイラー更新
- 10月 ●牛用増強設備および大型出荷タンク増設

- ※「第10回全国和牛能力共進会長崎大会」開催
- 共進会に展示ブースを出展
- 12月 ●中央制御室増設

平成25年 2013

- 1月 ●危機管理対応本社社屋建設（本社・東部支店・北九州ジェイエイ畜産株式会社新社屋へ移転）
- 2月 ●受注センター開設
- 3月 ●山口・福岡・大分エリア受注センターでの受注開始
- 主原料・副原料粉碎・払出および圧ベン工程自動化
- 副原料粉碎机2台更新
- 5月 ●熊本県北牛用中継基地（バラ基地）開設
- 8月 ●牛用ペレットミル更新
- 11月 ●熊本エリア受注センターでの受注開始
- 12月 ●ペレット製造二次粉碎工程および搬送工程自動化
- ペレット二次粉碎机4台更新

平成26年 2014

- 3月 ●副原料受入工程自動化
- 6月 ●長崎エリア受注センターでの受注開始
- 8月 ●第1系列配合ミキサー更新
- 佐賀エリア受注センターでの受注開始
- 10月 ●主原料および副原料粉碎系列搬送機更新
- ※全国的に豚流行性下痢症（PED）が流行

平成27年 2015

- 1月 ●労働災害ゼロ 4000日達成
- 3月 ●クラウンエキスパンダー製造設備増設
- 4月 ※子会社社名変更
JA北九州ファーム株式会社（旧株式会社北九州ジェイエ

- イ畜産）
JAうすきたまごファーム株式会社（旧株式会社白杵養鶏場）
- 出荷口改造およびスラットコンベア設置
- 5月 ●牛用抗菌剤添加飼料製造設備増設
- 7月 ●第2バラおよび第1バラ一部へのトランスバッグ充填用設備設置
- 11月 ●主原料荷役設備ニューマチックアンローダー更新

平成28年 2016

- 4月 ※JAうすきたまごファーム株式会社福岡鶏卵センター建設稼働
- ※熊本地震が最大震度7で発生（本社に熊本地震対策本部を設置、被害状況の確認と社員および生産者の被災復旧応援体制を敷く）
- 9月 ●鶏豚バラ出荷タンクおよび出荷設備増設
- 第1バラトランスバッグ充填用設備設置
- 10月 ●包装設備パレタイザー更新
- 11月 ●鶏豚工程ペレットミルおよびクーラー更新
- 近赤外線分析装置導入
- 受電室低圧配電盤更新

平成29年 2017

- 2月 ●受電室高圧配電盤更新
- 3月 ●イージーオープン採卵鶏用紙袋の使用開始

- =本社・全社関連 ●=福岡工場関連
- =長崎工場関連 ●=熊本工場関連
- =大分工場関連 ※=その他

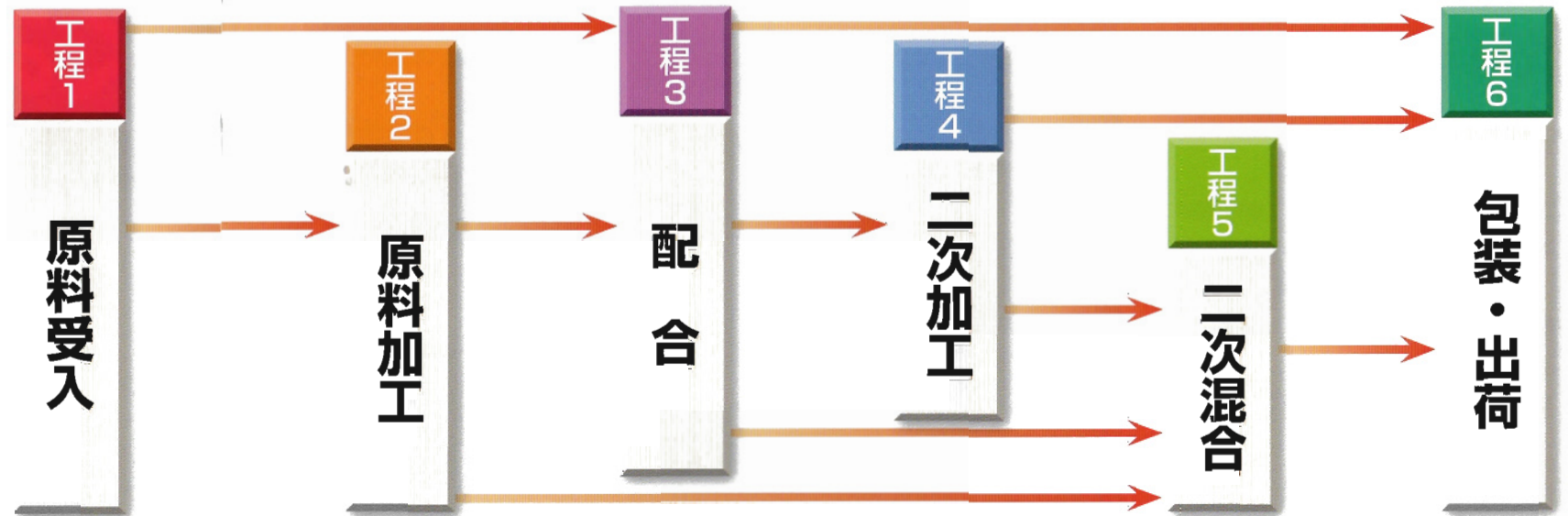
下記用語に関しては、次のように表記する。
有薬=抗菌性飼料添加物含有飼料
無薬=抗菌性飼料無添加物含有飼料

配合飼料の製造工程

～飼料ができるまで～

安全で高品質な畜産物を生産するために、配合飼料は欠かせません。配合飼料の原料となるとうもろこし、大豆かすなどをコンピュータ制御された製造工程で配合し、品質と安全性に優れた“くみあい配合飼料”をお届けしています。これからも、品質確認はもちろんのこと、これまで積み上げてきたノウハウを活かし、品質と信頼の向上に挑戦していきます。

配合飼料の製造工程図



工程1 原料受入

原料受入…とうもろこしや麦などは大型船でサイロ会社に搬入され、工場へ直結したコンベアラインやトラック等で受入を行います。その他の原料は、トラック等で工場内へ搬入されます。原料は品質チェック後、受入を行います。**消毒体制**…工場へ搬入する全ての車両は消毒ゲートで入念に消毒を行います。



船からの原料荷降ろし作業



トラックによる原料受入



消毒ゲート

工程2 原料加工

粉碎…とうもろこしや麦など粉碎が必要な原料は、粉碎機で粉碎します。その後、ふるい機で粒度ごとに分別されます。**圧ベン**…蒸気で蒸してフレーク状に加工します。加工後はアルファー化度が上がり、消化吸収や嗜好性の向上が期待されます。



粉碎機



圧ベン機

工程3 配合

計量…配合割合に応じて、原料を正確に計量します。それらの制御はコンピュータにより一括管理され、中央制御室のオペレーターによる監視を行っています。



中央制御室

混合…計量された原料は、ミキサーで均一に混合されます。混合された製品は品質チェックを実施し、次の工程へ送られます。



ツインバドルミキサー

工程4 二次加工

ペレット…配合飼料を微粉碎して蒸気を加え、円柱状に成型します。



ペレットマシン

エキスパンダーペレット…蒸気と圧力を加え、消化吸収を向上させるエキスパンダー加工を施した後、成型します。



エキスパンダー

クランブル…ペレットを粗く砕いたクランブル加工もあります。ひなへの給与やリキッドフィーディングに適しています。

工程5 二次混合

混合…圧ベンおよびペレットと原料（工程3で混合したものを含む）を再度混合します。嗜好性向上のため、糖蜜などの液体原料を添加することもあります。



カットブレンダー



ドラムミキサーによる混合

工程6 包装・出荷

出荷はバラ出荷をはじめ、トランスバッグ、紙袋包装などお客様のニーズに合わせた様々な形態があります。

バラ出荷…

製品タンクから計量しバルク車へ積みこみ、



バラ出荷

生産者へ配送されます。多くの製品がこの方法で出荷されています。

トランスバッグ…専用の充填装置で配合飼料をバッグに充填します。容量は500kgや1000kgがあり、中継基地や一部の生産者へ配送されます。

BHK…主に中継基地への配送に用いられるFRP等でできたコンテナで



トランスバッグ充填

す。トランスバッグに比べ、配合飼料の配送が容易なのが特徴です。**紙袋**…20kgごとに紙袋へ充填されます。計量・ロット印字・袋口縫い・重量チェックはいっ付けまで自動化されています。

福岡工場

工場長：執行役員工場長 岩尾 隆幸
 所在地：福岡県福岡市中央区那の津
 5丁目2番24号
 設立年月：昭和42年7月
 操業年月：昭和43年4月
 畜種：鶏・豚・牛
 TEL：092-771-9241
 FAX：092-771-8990



福岡工場全景

工場の概要

主な出荷エリア：山口県、福岡県、
 熊本県(鶏豚用飼料)、
 大分県(牛用飼料)
 定時能力：実月産定時能力 12,800ト
 鶏豚配合系列(抗菌剤添加・
 無添加) 8,500ト
 牛配合系列(抗菌剤無添加)
 4,300ト
 出荷実績：205,640ト
 (平成28年度実績)
 鶏 71,285ト(34.7%)
 豚 72,253ト(35.1%)
 牛 59,138ト(28.8%)
 その他 2,964ト(1.4%)
 従業員数：31名
 (平成29年7月1日現在
 臨時、嘱託を含む)

工場の特徴

昭和43年の操業開始から49年が経過した工場です。出荷数量の増加にともない設備の増設や製造工程の自動化、安全・安心な配合飼料を製造するための抗菌性飼料添加物含有飼料工程の分離、BSEガイドラインによる鶏豚用飼料製造工程と牛用飼料製造工程の分離、エキスパンダー設

備および圧パン設備の増設などを行い今日に至っています。平成27年度には「ペレットマッシュ飼料」の製造出荷を開始しました。

工場の取り組み

製造・出荷設備の特徴

牛用設備20ト/H・鶏豚用設備35ト/Hの製造能力を備えた総合工場です。
 牛工場ミキサーは、ツインパドルミキサー×2基を設置し安定した混合精度を確立しています。
 鶏豚用設備には、抗菌剤無添加ペレット工程2系列、抗菌剤添加ペレット工程1系列の3系列を装備しています。

圧パン製造設備は、ストーナー(比重選別石取り機)・アスピレー

ター(オナモミ取り機)・セパレーター(ふるい機)計3台の異物混入防止装置を装備しています。

鶏豚紙袋製品については、全エリアの製造を福岡工場に集約し効率化を図っています。

バラ出荷は24時間出荷可能で、無人窓口で運転手自ら伝票を発行すると同時に積込可能となるなど、効率的な出荷設備となっています。

労働安全管理

「安全パトロール」の実施や「ヒヤリ・ハット掲示板」活用による作業環境の改善、外部講師を招いてのフォー



ロボットパレタイザー



計量機付ツインパドルミキサー

クリフト安全講習、AED操作講習、消火訓練等を実施し、安全に対する知識や意識の高揚に努めています。

防疫体制

工場での工程管理と品質管理を徹底し、安全・安心な配合飼料の提供に取り組んでいます。防疫対策として、福岡工場はアジア諸国に近いという地理的リスクを踏まえ、防鳥・防鼠対策、工場内入場車輛の消毒、定期的な構内消毒を確実に実施し、病原菌の侵入、まん延防止に努めています。

地域貢献活動

地域貢献活動として、「ラブアース・クリーンアップ」「港の清掃デー」へ

の清掃活動に参加し、工場周辺の環境美化に取り組んでいます。

人材育成

免許・資格を年間計画に基づき取得しています。

各種研修・多能職計画により、スキルアップを図っています。

今後の展望

鳥インフルエンザなど病気の発生や少子高齢化による畜産物の消費減少など、畜産業界にとっては厳しい環境下となっています。このような中でも、生産者の皆様と共に美味しい畜産物を消費者にお届けすることを喜

びとして、今後も「安全で安心な高品質の配合飼料」を製造・出荷し、いつまでも信頼される工場であり続けるよう、社員一丸となって取り組んでいきます。



福岡くみあい飼料株式会社跡碑



中央制御室



BHK 出荷



消毒ゲート



品質管理室



長崎工場

工場長：執行役員工場長 田崎 弘嗣
 所在地：長崎県佐世保市千尽町36番地
 設立年月：昭和39年1月
 操業年月：昭和39年11月
 畜種：鶏・豚・牛
 TEL：0956-32-1245
 FAX：0956-32-7577



長崎工場全景

工場の概要

主な出荷エリア：佐賀県、長崎県

定時能力：実月産定時能力 18,000トン

鶏豚配合系列（抗菌剤添加・無添加） 7,200トン

牛配合系列（抗菌剤無添加） 5,500トン

牛配合系列（抗菌剤添加） 5,300トン

出荷実績：257,975トン

（平成28年度実績）

鶏 106,659トン（41.3%）

豚 41,299トン（16.0%）

牛 109,105トン（42.3%）

その他 912トン（0.4%）

従業員数：29名

（平成29年7月1日現在
 臨時、嘱託を含む）

工場の特徴

長崎工場は牛用設備、鶏豚用設備を併設した全畜種対応の工場です。平成23年鶏豚用新設備の稼働、平成24年に牛用配合ライン・加圧圧ベン設備を増設しました。佐世保港に面し、隣接する西九州倉庫株式会社のサイロに本船より受け入れられた主原料をコンベアによって牛用設備、鶏豚用設備に搬送し製造が行われます。

工場の取り組み

製造・出荷設備の特徴

出荷設備の特徴は、通常の30トンタンク

に加え、60トン容量のタンクを牛用設備、鶏豚用設備ともに各8本有し、大ロットへの対応も可能です。バラ出荷は24時間出荷を行うことで生産者の要望に応えることができる設備となっています。

牛用設備の特徴としては、抗菌剤添加の製造ラインを持っており、中央制御室で自動化システムによる工程管理が行われています。

鶏豚ペレット工程では、全国に数少ないクラウンエキスパンダーを導入し高性能飼料の開発・普及に取り組んでいます。

鶏豚配合工程は、80本の微量原料タンクにより自動計量することでロスが少ない配合工程となっています。

労働安全管理

長崎工場では、フォークリフト安全講習、低電圧電気安全研修、AEDを



船による原料受け入れ



バラ出荷

使用した救命救助講習など外部講師を招いて行うことで日頃の安全作業につなげています。

防疫体制

ISO9001ならびに抗菌剤GMPの認証を取得し、工程管理、製品品質、製造管理プロセスの維持向上に努めています。平成30年度に「統合GMP」の取得を予定しています。

また、病気のまん延を防止する措置として、全車両の消毒、構内消毒を実施しています。

地域貢献活動

地域貢献活動として佐世保市海の日協賛会が開催する「みなと大清掃」に参加しています。また、年2回工場周辺港湾道路のゴミ拾いを行っています。

人材育成

JA全農、くみあい飼料工場会が開催する各種研修会への参加、工場内の多能職、通信教育の受講等の計画を立て、スキルアップを図っています。

今後の展望

近年は、消費者の食の安全に対する関心が高まっています。生産者の皆様の安全・安心への期待に対して実績を積み重ねることで、畜産物を購入していただく消費者の皆様にも信頼される存在でありたいと考えます。

長崎工場は、これからも飼料製造工場として、地域の生産者の皆様に喜んでいただける良い品質の配合飼料を社員一同がんばって製造・出荷していきます。



クラウンエキスパンダー



微量原料配合計量機



消毒ゲート



中央制御室



熊本工場

工場長：執行役員工場長 松永 幸倫
 所在地：熊本県八代市新港町1丁目
 11番地
 設立年月：昭和46年11月
 操業年月：昭和48年7月
 畜種：牛
 TEL：0965-37-1166
 FAX：0965-37-1624



熊本工場全景

工場の概要

主な出荷エリア：熊本県(牛用飼料)
 定時能力：実月産定時能力 11,600ト
 牛配合系列(抗菌剤無添加) 6,300ト
 牛配合系列(抗菌剤添加) 5,300ト
 出荷実績：154,866ト
 (平成28年度実績)
 牛 149,731ト(96.7%)
 その他 5,135ト(3.3%)
 従業員数：33名
 (平成29年7月1日現在
 臨時、嘱託を含む)

工場の特徴

熊本工場は昭和48年の操業で、今

年(平成29年)で45年目を迎えました。操業以来高度成長期に支えられ、トランスバグ置き場増設、事務所および品質管理室増設、ミニペレットライン増設、フレック製造ライン増設など、拡張してきた歴史があります。そして時代の流れと共に、自家発電導入、抗菌剤添加無添加完全分離、無人出荷設備などの省エネ化、省力化、品質の向上なども進めてきました。

また、他工場にはない規模の外国貨物を保管できる主原料サイロ(10,000ト)と副原料サイロ(2,000ト)を有しています。

平成17年からのBSEガイドライン制定に伴い、平成16年から県北鶏豚中

継基地を稼働させ、鶏豚用配合飼料の製造を段階的に中止していき、平成17年4月より牛用飼料専用工場として生まれ変わりました。

平成20年には抗菌剤GMPガイドライン適合確認証を取得し、九州内の系統牛用飼料工場では、数少ない抗菌剤添加飼料を製造できる工場として、九州全域に出荷しています。

平成25年には、熊本県の北部に牛用バラ中継基地を建設し、生産者への安定した出荷に努めています。

工場の取り組み

製造・出荷設備の特徴

製造コストの低減として契約電力の見直しと提案制度活用による職場の効率アップを図っています。

平成26年に新受注システムを構築し、受注を集約して無人出荷窓口より伝票を出力することにより効率化を図っています。また、主製品のバラ出荷については24時間対応の自動出荷設備となっています。製造システムの自動化を進め、パッキング工程以外はほぼ自動化となっています。



熊本県北牛用中継基地

労働安全管理

労働安全については、朝礼での注意喚起はもとより、年度始めに年間安全衛生計画を策定し、KYT教育や安全パトロール、安全講習など約50項目にわたり実施しています。そして毎月の安全衛生委員会で計画実施を検証し、労働安全コンサルタントによる助言などもいただきながら、労働災害ゼロを目指しています。

防疫体制

安全・安心の提供として工場管理と品質管理の徹底と、全工場消毒レベルを設け、消毒を実施しています。

工場敷地内への車両入場については、消毒ゲートの通過、運転手による車輛足回りの消毒を実施しています。そして、社員による定期的な場内消毒

を実施し、防疫体制の徹底を行っています。

また、防鳥・防鼠対策については、専門業者の協力を得ながら撲滅に取り組んでいます。

地域貢献活動

環境保全・地域貢献活動として、行政が支援する「みんなの川と海づくりデー」への清掃活動の参加や工場周辺の清掃活動を行っています。また、地域ごとの清掃や、スポーツ活動の応援として当工場野球グラウンドの無償提供を行っています。

人材育成

人材育成の強化については各種研修会に出席し、スキルの向上を図り、多能職計画を立てて工場のBCP(事業継続計画)対策として進めています。

今後の展望

近年の畜産業界はとても厳しい状況下にあると言えます。熊本工場は牛用飼料専用工場であるため、特に近年の素牛高の影響や後継者不足で、廃業や飼養頭数の減少等の影響を受けています。

しかし、強みである抗菌剤添加飼料の販売拡大と、物流面で九州の中心という立地を活かし、安全で高品質な配合飼料を製造・出荷していきます。今後も当社の経営理念にある「生産者と消費者に奉仕する心で地域農家と連携し安全安心を提供する」を念頭に頑張っていきます。



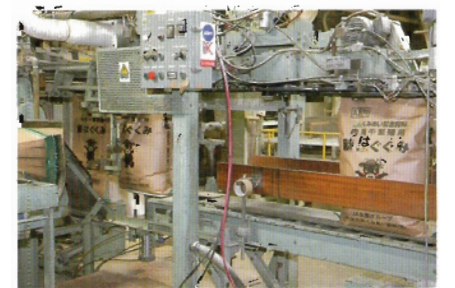
GMPガイドライン適合確認証



サイロ



微量原料計量機



紙袋パッキング機



大分工場

工場長：執行役員工場長 安部 文夫
 所在地：大分県速見郡日出町大字川崎字浜田5969番地の10
 設立年月：昭和41年9月
 操業年月：昭和42年7月
 畜種：鶏・豚
 TEL：0977-72-2224
 FAX：0977-72-7189



大分工場全景

工場の概要

主な出荷エリア：大分県(鶏豚用飼料)
 定時能力：実月産定時能力 6,300トﾝ
 鶏豚配合系列(抗菌剤添加・無添加) 6,300トﾝ
 出荷実績：98,206トﾝ
 (平成28年度実績)
 鶏 74,768トﾝ (76.1%)
 豚 22,866トﾝ (23.3%)
 その他 572トﾝ (0.6%)
 従業員数：16名
 (平成29年7月1日現在
 臨時、嘱託を含む)

工場の特徴

大分工場は、昭和42年の操業開始で、平成29年で50年目を迎えた工場です。製造数量の増加にともない施設・設備の増設や受入・製造から出荷までの各工程の自動化等も実施してきました。BSEガイドラインの制定により平成16年から鶏・豚・牛工場から鶏豚用飼料専用工場として製造業務を行っています。

自工場として、保税サイロや船荷役設備を保有し、主原料や大豆かすの荷揚げを工場にて行っています。

鶏豚用飼料専用工場として、顧客

のニーズに合わせた配合飼料、特にペレットマッシュ飼料やクランブル飼料等を製造しています。

工場の取り組み

製造・出荷設備の特徴

鶏豚用飼料専用工場で、出荷エリア内は、ほぼすべて直送体制で出荷を行い、直送純バラ比率は99.4%と非常に高く、少人数体制で製造を行っています。抗菌性飼料添加物含有飼料については、ポストミキシング方式での製造を行っています。

製造・出荷システムと受注システムの連動により、効率の良いバラ出荷を24時間対応で行っています。

製造工程の改善の的確な実施による生産性の向上および品質の向上や工場外クレームゼロへの取り組みを実施しています。

労働安全管理

「安全パトロール」「ヒヤリ・ハット掲示板」活用により、施設の改善や職員への周知等を図り、労働災害ゼロの取り組みを行い、労働災害ゼロ4,000日を達成しました。(平成16年1



コンテナボックスからバルク車への積みかえ作業

月26日～平成27年1月8日)

現在、大分工場のモットー「当たり前なことを当たり前に行う。」を念頭におき、労働安全に取り組んでいます。

防疫体制

工場における工程管理と品質管理を徹底し、さらなる安全・安心な製品づくりに努めています。

防鳥・防鼠対策は、野鳥の侵入防止としての防鳥ネット設置等や専門業者と連携した鼠駆除対策の実施に取り組んでいます。また、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動も実践しています。人・車両の対策としても、入場時の消毒の徹底を図っています。

地域貢献活動

地域貢献活動として、地区の清掃活動や行事に積極的に参加していま

す。工場周辺道路のゴミの回収や樹木の片付け等を行っています。

人材育成

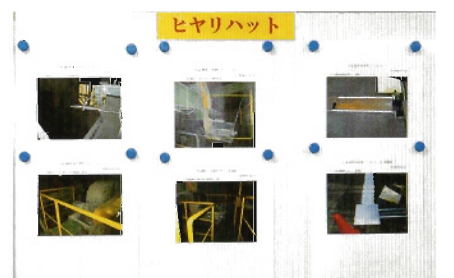
人材育成については、社員の技術向上のため、現状の把握や問題点の洗い出し・改善を行っています。目の行き届いた指導を心掛け、研修受講や教育の計画を立て、各自のスキルアップを進めています。

今後の展望

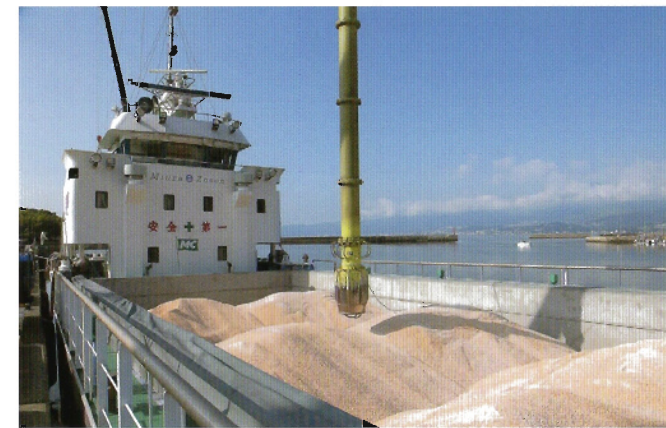
大分工場は、年間製造数量が10万トﾝ未満と小規模な工場です。しかし、小規模工場ならではの強みや利便性を活かし、地域の畜産に貢献していきます。また、製造の生産性や製品の品質等においても、さらなる高水準を保てるよう常に努力してまいります。



保税サイロ



ヒヤリ・ハット掲示板



船からの荷揚げ作業



抗菌性飼料添加物計量機



事業所紹介 / 本 社



常勤役員



管理部

総務・法務・経理・情報システム・人事部門である本社管理部は、会社の経営方針および経営計画に関することを主管し、人事労務や労働安全、コンプライアンス等を行う管理企画・コンプライアンス課と、経理会計、資金管理や管財、電算システムの維持管理を行う経理システム課の1部2課の体制で運営を行っています。

業務部

本社業務部は、工場と営業の懸け橋として、スタッフが一丸となって頑張っています。業務課では、原料関係から、配合設計、採算業務、品質管理に至るまで幅広い業務を行っています。

物流・受注センターでは、注文を確実に受け、声のやり取りによるコミュニケーションを大事にしています。



営業1部

佐賀県・熊本県を中心に関係部署と連携し、管内の採卵鶏・ブロイラー・養豚生産者への営業活動および新規事業の取り組みを行っています。農場の生産性向上に向けた営農サービスの実践および高性能飼料の普及、生産基盤の維持拡大への支援、新規畜産資材の開発等に努め、生産者の安定経営に寄与しています。



営業2部

佐賀県・熊本県を中心に関係部署と連携し、管内の肉用牛および乳用牛生産者のニーズに応えるべく、配合飼料・粗飼料の推進および生産性向上への提案、新たな知見による配合飼料の開発に努めています。

また、最新技術・機器の普及への取り組み、各種養牛研修会等を実施し、生産者の技術向上にも寄与しています。



事業所紹介／東部支店



広域営業部

福岡県・大分県・山口県を中心に、養鶏・養豚農場の営業活動を行っています。具体的には、飼料推進を中心に家畜の飼養管理・衛生管理指導ならびに経営まで一歩踏み込んだコンサルティング営業を行っています。

きめ細かな営業活動を行い生産者の安定した経営に寄与できるように努めています。

山口営業部

山口県内の肉用牛を中心に、生産者への飼料の普及拡大ならびに生産性の向上を目指し、営業活動を行っています。また、本社・東部支店ならびに全農山口県本部、農協と連携し、生産者への最新技術の情報提供、生産技術の向上のための支援を行っています。農協、生産者から期待と信頼がもてる営業活動に努めています。

福岡営業部

福岡県内の肉用牛・乳用牛を中心として飼料推進や生産者へのアドバイスによる経営のサポートに努めています。平成29年度は、福岡県として初めて第11回全国和牛能力共進会に参加します。

関係団体と一体となり、博多和牛を全国へアピールするとともに、福岡県の畜産発展に努めています。

大分営業部

大分県内の肉用牛を中心に、生産基盤の維持、拡大を図るとともに、生産者のニーズに対応した営業活動を行っています。具体的には、本社、支店、工場との連携を密に、生産者への巡回頻度を向上させ、その経営強化に繋がるコンサルティング営業と生産者ニーズに対応した販売、情報提供等を行い、大分県畜産業の振興を支援しています。

事業所紹介／長崎支店



広域営業部

長崎県内の養鶏・養豚の生産現場とのコミュニケーションを大切にしながら営業活動を展開しています。

生産者の皆さまから信頼される長崎支店として、生産者と消費者に奉仕する心を持って、飼料の拡販とともに、安全・安心な配合飼料の販売に努めています。

長崎営業部

長崎県内の肉用牛の配合飼料・単味粗飼料資材等の営業を農協と連携して行っています。前期粗飼料多給・高タンパク給与技術や機能性飼料の提案を中心に、生産性向上・長崎和牛生産基盤拡充に努めています。巡回現場では、飼料要求率の改善、生産性向上等を意識し、質の高い巡回営業を展開しています。

